

有峰でムカシヤンマの生息再確認 !

令和4年3月10日

有峰森林文化村指導員

有峰のトンボ類(トンボ目)は、過去22種が記録されています¹⁾。主な生息場所は、有峰湖に流れ込む溪流や谷合の湿地や小さな水溜まりと報告されています¹⁾。この報告では、溪流には、ムカシトンボ、クロサナエ、ヒメクロサナエなどがみられ、湿地や水溜まりではアオイトトンボ、ルリボシヤンマ、タカネトンボなどがみられたことから、ムカシトンボ、クロサナエ、ヒメクロサナエ、アオイトトンボ、ルリボシヤンマが有峰を代表する種であることが記載されています¹⁾。

どの種も個体数が少ないと記載されていますが、猪根平では、毎年、タカネトンボの生息を確認しています。一方、有峰で初夏から秋に多く見られるアキアカネやノシメトンボは低地からの移動個体、夏季以降に見られるウスバキトンボも移動個体として記載されています¹⁾。昨年も猪根平では、アキアカネ、ノシメトンボ、ウスバキトンボとも多くの個体を観察・確認しました(写真参照)。

今回は、昨年冷タ谷で生息が再確認されたムカシヤンマについて紹介します。種の同定は、昆虫の図鑑採集と標本の作り方などを参照しました²⁾。



ウスバキトンボ (猪根平 2021年8月1日)



アキアカネ (猪根平 2021年9月5日)

【分類】

ムカシヤンマ(昔蜻蜓、*Tanypteryx pryeri*)は、トンボ目トンボ亜目ムカシヤンマ科に属する日本固有種のトンボです。

【分布】

東北以南の本州と九州に分布、ムカシトンボより生息範囲は狭く、局所的とされています。環境省RDBIに記載されていませんが、東京都、群馬県、長崎県では絶滅危惧Ⅰ類、神奈川県、兵庫県、熊本県で絶滅危惧Ⅱ類、その他、多くの自治体において準絶滅危惧種として選定しています。

【形態】

体長は80mm程でムカシトンボより大きく、一見するとオニヤンマや大きなサナエトンボのようにも見えますが、オニヤンマとは複眼の色が違い、サナエトンボのように複眼が離れています。メス成虫は生殖弁ではなく産卵管を持っています。ムカシトンボのように原始的な特性を持っていますが、「生きた化石」とは言われていません。

【生態】

ムカシヤンマの幼虫(ヤゴ)は、一般的なヤゴと異なり、低水温やきれいな水質を好み、低山や山地の湿地、斜面の湧水地で、水が滴り落ちるような場所に生息しています。幼虫は、たつぷりと湿った土やコケの間に深さは5~15cmぐらいのトンネルを掘って生息しています。

このトンネルの中には水が溜まっている状態が多く、穴の入口近くを通る小動物を捕食します。成虫になるまで3年ほどかかると言われています³⁾⁴⁾。この幼虫期間は、ムカシトンボに次ぐ長期間です。有峰での幼虫期間はどのくらいでしょうか？ 成虫は、4～8月に発生、動作が鈍く、地面や道路脇の葉などに翅を広げたまま張り付いた格好で止まります(下の写真参照)。

【ムカシヤンマ 有峰では普通種？】

有峰では、過去(1994～1995)、折立、猪根平、東谷や峠谷での採集記録が報告され、採集記録は、7月下旬～8月中旬に集中しています¹⁾。過去の採集記録も含め、有峰での成虫発生時期は7月～8月と考えられます。冷タ谷での発見は、昨年**2021年8月9日**午前10:00頃で、**初記録**となりました(写真参照)。有峰は、6ヶ月間雪に閉ざされる豪雪地帯で、気温が富山市街地より約7℃低く、夏は冷涼で、厳しい気象条件下にあります。湿地や湧水地もあり、本種のヤゴが低水温で、きれいな水質を好むことを考慮すると、ムカシヤンマにとって有峰は、好適な生息地と思われます。

有峰湖ができて水没する前、ムカシヤンマは大多和奥より有峰にかけて産し、有峰全域に普通種であると記載されていますが⁵⁾、現在では希少種と考えられます。今後も有峰におけるムカシヤンマの分布状況や生態、特に、ヤゴの生息場所や成虫の発生時期や発生消長に注目していきます。食肉性昆虫のトンボ類は、ハエ、アブやカなどを捕食する益虫です。

その他のトンボ目の分布状況についても注目していきたいと考えています。色々な生物の再発見がある有峰はおもしろい！ 楽しい！ と思います。



太ももで静止中のムカシヤンマ♀(冷タ谷 2021年8月9日 10:00AM)
ペットみたいですね !

文献

- 1)中川秀幸他、有峰の昆虫類 常願寺川流域(有峰地区)自然環境調査報告(富山市科学文化センター)、1995
- 2)福田晴夫他、増補改訂版 昆虫の図鑑採集と標本の作り方、2012/南方新社
- 3)ウィキペディア(Wikipedia) HP 2022. 2.15閲覧
- 4)川合禎次・谷田一共編、日本産水生昆虫科・属・種への検索【第二版】/東海大学出版部
- 5)南山隆弘、有峰採集行蜻蛉類一覧、Neozephyrus、1:30-31、1953